

古文ドリル：「ん」（む・らむ・けむ等の口語形）100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「ん」の正体

古文の「ん」は、中世以降に登場した「む・らむ・けむ」などの口語化形。

「ん」の正体	意味
む → ん	推量・意志（～だろう・～よう）
らむ → らん	現在推量（今～だろう）
けむ → けん	過去推量（～たであろう）
ぬ未然+む → なむ → なん	確実な推量・意志（～してしまうだろう）

→ 中世以降の文章（軍記物語・狂言・浮世草子）に頻出。

識別の鉄則

1. 直前の活用形 で「ん」の正体を判別
2. 未然形+ん → ん系（推量・意志）
3. 終止形+らん → らむ系（現在推量）
4. 連用形+けん → けむ系（過去推量）

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは 試験本番で3秒で答えを出す ための実戦テクニックです。

コツ① 「ん」を見たら 直前2文字 をまず見る

- 「らん」「りん」 → らむ系（現在推量「～ているだろう」）
- 「けん」 → けむ系（過去推量「～たであろう」）

- 「なん」→ なむ系（完了「ぬ」未然+推量「む」or 願望「なむ」）
- 上記以外の単独「ん」→ 多くは「む」の口語形（推量・意志）

コツ② 訳語は「だろう／よう」を当ててみる

- 「行かん」「見ん」→ 「行こう／見よう」と訳せれば意志、「行くだろう／見るだろう」なら推量。
- 「ん」が文末で1人称主語なら意志、3人称主語なら推量、というのが原則。

コツ③ 時代背景で「ん」「らん」「けん」を区別

- 平安期の文章なら「む／らむ／けむ」が原形で出るので、「ん」表記が出てきたら **中世以降の文章** と判断。
- 軍記・狂言・近世散文では「ん」表記が当たり前。

コツ④ 「なん」は2パターンに分かれる

- 未然形+なん → **願望の終助詞「なむ」**（～してほしい）
- 連用形+なん → **完了「ぬ」未然+推量「む」**（きっと～だろう）
- 直前の活用形が決め手。

試験本番でのチェック順序

1. 「らん」「けん」「なん」の3パターンに当てはまるかチェック
 2. どれにも当てはまらなければ単独「ん」= **「む」の口語形**
 3. 訳語「～だろう／～よう」を当てて推量か意志かを定める
 4. 主語が1人称か3人称かで最終確認
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「らん」を全部「らむ」と決めつけない → 「あらん」は「あら+ん」でラ変未然+むの可能性あり
- 「なん」を **係助詞「なむ」** と取り違える → 文末か途中かで判断（途中なら係助詞、文末なら完了+推量 or 願望）
- 中古以前の文章で「ん」表記は基本出ない → 出典が中世以降か確認

採点表

- 基礎（Q1～Q20）： /20
- 標準（Q21～Q50）： /30

- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

Q1. 「ん」を識別せよ。

我れ行かん。

Q2. 「らん」を識別せよ。

都に雪降るらん。

Q3. 「けん」を識別せよ。

古代の人、いかに苦しみけん。

Q4. 「なん」を識別せよ。

雨降らなん。

Q5. 「ん」を識別せよ。

君も来んかし。

Q6. 「らん」を識別せよ。

なぜ花散るらん。

Q7. 「けん」を識別せよ。

いかにありしけん。

Q8. 「ん」を識別せよ。

早く帰らん。

Q9. 「らん」を識別せよ。

故郷の人、今いかにあらん。

Q10. 「けん」を識別せよ。

昔の人、何思ひけん。

Q11. 「ん」を識別せよ。

我れ仕うまつらん。

Q12. 「らん」を識別せよ。

月の都の人、今いかに住むらん。

Q13. 「けん」を識別せよ。

我が祖、いかに生きけん。

Q14. 「ん」を識別せよ。

春過ぎば、人皆嘆かん。

Q15. 「らん」を識別せよ。

いかなる宿世にあるらん。

Q16. 「けん」を識別せよ。

古き家、いかに栄えけん。

Q17. 「ん」を識別せよ。

知る人ぞ知らん。

Q18. 「らん」を識別せよ。

春や来たらん。

Q19. 「けん」を識別せよ。

古典ありしけん頃。

Q20. 「ん」を識別せよ。

いざ参らん。

基礎編 / 20

【第2部】 標準編 (Q21～Q50)

連体形「ん」(体言修飾)、婉曲・仮定の用法。

Q21. 「ん」を識別せよ。

行かん人を待つ。

Q22. 「らん」を識別せよ。

都に春や来たらん。

Q23. 「けん」を識別せよ。

昔の人もかく言ひけん。

Q24. 「ん」を識別せよ。

雪降らん夜は寒からん。

Q25. 「らん」を識別せよ。

我が思ふ人、いかに過ぐすらん。

Q26. 「けん」を識別せよ。

雪深き道を、いかに帰りけん。

Q27. 「ん」を識別せよ。

我れに任せん。

Q28. 「らん」を識別せよ。

都の事、いかになりたらん。

Q29. 「けん」を識別せよ。

大臣、いかに思しけん。

Q30. 「ん」を識別せよ。

あらん限り、励まん。

Q31. 「らん」を識別せよ。

鳥の声、聞こゆらん。

Q32. 「けん」を識別せよ。

先代の人、何を後の世に残しけん。

Q33. 「ん」を識別せよ。

我れ歌詠まんと思ふ。

Q34. 「らん」を識別せよ。

春や来ぬらん、雪まだ消えず。

Q35. 「けん」を識別せよ。

古き世には、いかなる契りありけん。

Q36. 「ん」を識別せよ。

言はんにはあらず。

Q37. 「らん」を識別せよ。

心づくしの秋風、いかに吹くらん。

Q38. 「けん」を識別せよ。

人皆、いかにあきれけん。

Q39. 「ん」を識別せよ。

山深くこもらん。

Q40. 「らん」を識別せよ。

都の月、今宵照るらん。

Q41. 「けん」を識別せよ。

何ゆゑかかる事ありしけん。

Q42. 「ん」を識別せよ。

仇を討たん。

Q43. 「らん」を識別せよ。

何処にて宿借るらん。

Q44. 「けん」を識別せよ。

いと心強くも侍りけんかな。

Q45. 「ん」を識別せよ。

月見ん人は出で給へ。

Q46. 「らん」を識別せよ。

我が宿に来鳴くらん鳥は何ぞ。

Q47. 「けん」を識別せよ。

古の聖、いかに学びけん。

Q48. 「ん」を識別せよ。

心強くあらんには。

Q49. 「らん」を識別せよ。

故里の事、いかにあるらん。

Q50. 「けん」を識別せよ。

古の友、いかに過ぐしけん。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

軍記物語・狂言・近世文の頻出パターン。

Q51. 「ん」を識別せよ。

兵を率ゐて打ち向かん。

Q52. 「らん」を識別せよ。

敵、すでに陣を布くらん。

Q53. 「けん」を識別せよ。

先陣はいかにかしけん。

Q54. 「なん」を識別せよ。

御身も無事におはせなん。

Q55. 「ん」を識別せよ。

こなたへ参らんかし。

Q56. 「らん」を識別せよ。

あら、何の音すらん。

Q57. 「けん」を識別せよ。

道中、いかに苦しみけん。

Q58. 「ん」を識別せよ。

我れ、命をも惜しまん。

Q59. 「らん」を識別せよ。

主君は今いづくにおはすらん。

Q60. 「けん」を識別せよ。

都を出でし時、いかに泣きけん。

Q61. 「ん」を識別せよ。

言ふもあへぬ事も語らんものを。

Q62. 「らん」を識別せよ。

いづくにてか宿らせ給ふらん。

Q63. 「けん」を識別せよ。

いかに心細く思ひけん。

Q64. 「ん」を識別せよ。

御供せん人は名乗れ。

Q65. 「らん」を識別せよ。

あはれ、誰がため衣を干すらん。

Q66. 「けん」を識別せよ。

古の聖人、何を悟りけん。

Q67. 「ん」を識別せよ。

軍を起こさんためなり。

Q68. 「らん」を識別せよ。

月いま西に傾くらん。

Q69. 「けん」を識別せよ。

何の宿縁にて生まれあひけん。

Q70. 「ん」を識別せよ。

いかなる事もせん。

Q71. 「らん」を識別せよ。

心ありてや見ゆらん。

Q72. 「けん」を識別せよ。

古き世の人と同じく思ひけん。

Q73. 「ん」を識別せよ。

雪解けて、春や立たん。

Q74. 「らん」を識別せよ。

風、波を起こすらん。

Q75. 「けん」を識別せよ。

我が祖父、何を思ひ伝へけん。

Q76. 「ん」を識別せよ。

言ふも愚かならん。

Q77. 「らん」を識別せよ。

海原はるかに波立つらん。

Q78. 「けん」を識別せよ。

古き恋、いかに終はりけん。

Q79. 「ん」を識別せよ。

死を恐れんや。

Q80. 「らん」を識別せよ。

鶯の鳴く声、谷より聞こゆるん。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

中世以降の文献・難関大頻出。

Q81. 「ん」を識別せよ。

何の用にも立たじ。捨てんものを。

Q82. 「らん」を識別せよ。

月のおもしろき夜、誰が床に伏すらん。

Q83. 「けん」を識別せよ。

異国の人、何を見けん。

Q84. 「ん」を識別せよ。

弓矢の道に身を捧げん。

Q85. 「らん」を識別せよ。

帝、御心痛め給ふらん。

Q86. 「けん」を識別せよ。

義経、いかなる思ひにて落ち給ひけん。

Q87. 「ん」を識別せよ。

一人として知らん者なし。

Q88. 「らん」を識別せよ。

故郷の親、今いかに我れを待つらん。

Q89. 「けん」を識別せよ。

業平の歌、いかにして詠み出だしけん。

Q90. 「ん」を識別せよ。

軍の中に紛れ入らん。

Q91. 「らん」を識別せよ。

落人、いづれの里に隠れみるらん。

Q92. 「けん」を識別せよ。

古き世の母、何を子に語りけん。

Q93. 「ん」を識別せよ。

いかにかせん、ためらひ伏す。

Q94. 「らん」を識別せよ。

暁、鶏鳴く頃、何思ふらん。

Q95. 「けん」を識別せよ。

物思ひに沈み、夜もすがら泣き明かしけん。

Q96. 「ん」を識別せよ。

御代に二たびと逢はんにはあらず。

Q97. 「らん」を識別せよ。

紅葉散る里に、人や住むらん。

Q98. 「けん」を識別せよ。

古き世の人、いかに月を眺めけん。

Q99. 「ん」を識別せよ。

我れ、心を尽くして仕へん。

採点振り返り

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- **合計 : /100**

8割 (80点) 以上で入試対応レベル。

あとかぎ

「ん」識別の核心： - 中世以降の **口語形** - 直前の活用形で「む」「らむ」「けむ」のどれか判別 - 接続の規則が乱れることがある（中世以降）

軍記物語・狂言・浮世草子で頻出。古典の各時代で文法が変化することを理解。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotennosenensei.com>